

中期経営計画

2023.05.19



INDEX

01. 骨太の方針
02. 業績目標
03. 財務計画
04. サステナビリティ



01. 骨太の方針

02. 業績目標

03. 財務計画

04. サステナビリティ

- 1885年、藤倉善八による個人企業として創業
- アーク燈を見て、電気の時代を予見



藤倉善八



庶民が初めて見たアーク燈。その明るさに驚く



- 女性用ヘアバンド「根掛け」の技術を電線製造に活用
- 独立系である当社が強大な競合社に比し生き残る術は「技術」しかない



当社のDNAは「進取の精神」と「技術のフジクラ」

世界では今後も大きな変革が進むとともに、多様な技術革新が起こる。

こういった社会の変化や技術の進展があるところには、

私たちフジクラグループの優れた技術を活かせる機会が必ずある。

“つなぐ”テクノロジーを通じ、顧客の価値創造と社会に貢献することが
当社の「Purpose」であり存在意義。

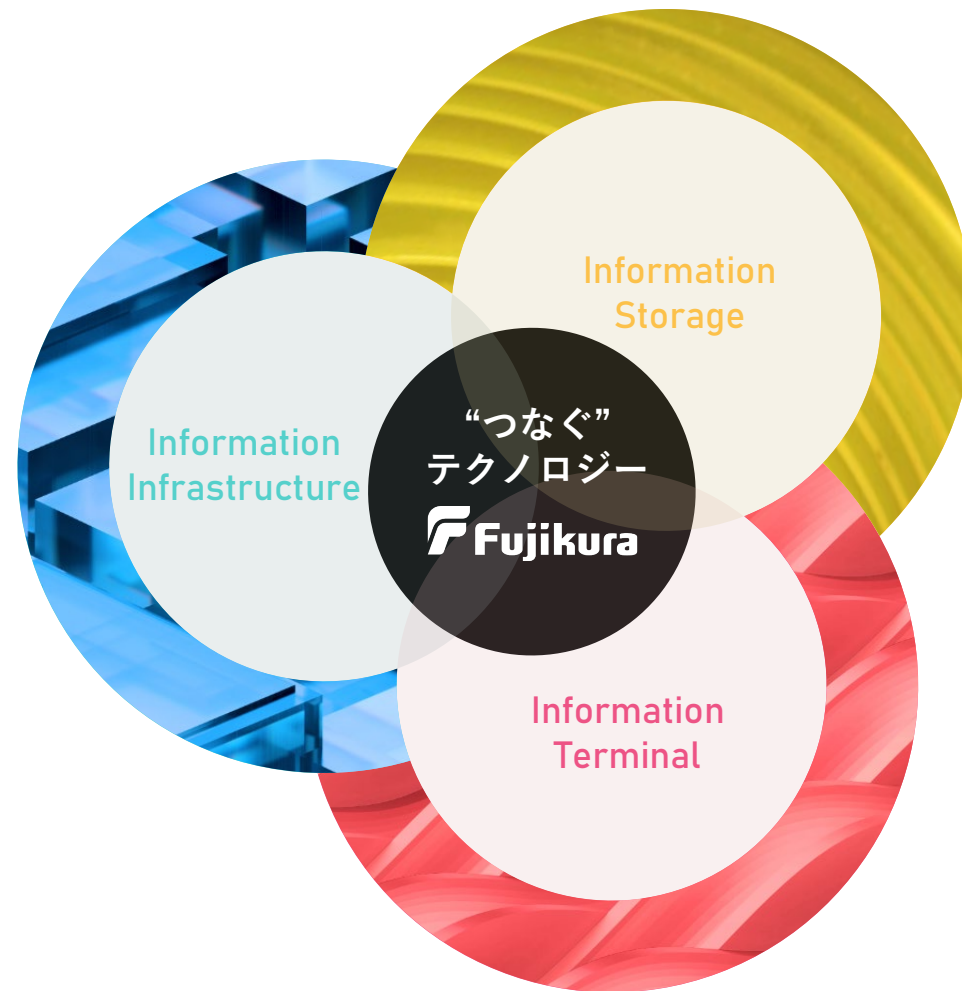
すべてのモノが「つながる」世界を実現した未来予想

動画はこちら



情報インフラ

革新的な光技術をベースとした
光配線ソリューションと
将来の高速無線通信技術によって、
高度情報化社会実現のための
インフラ基盤の構築に貢献。



情報ストレージ

ユニークな電子部品技術や
超高密度光配線技術で、
膨大な情報をストレージする
データセンタの構築に貢献。

情報端末

高精細な電子部品や配線・実装技術で、
高速大容量かつ高機能な
情報端末の進化に貢献。
次世代車も情報端末と捉える。

情報インフラ・情報ストレージ・情報端末の“つなぐ”テクノロジーで、
「技術のフジクラ」による顧客価値創造と社会貢献を目指す。



- 世界第1位の巨大市場
- 中国企業との合併会社主体による母材からケーブルまで一気通貫での地産地消
→日本産ファイバは光ケーブル事業拡大に活用



- 世界第2位の市場
- SWR/WTCによるTCO※削減
- 再エネ投資が活発な電力市場向け光ケーブルにもSWR技術を活用

※TCO=Total Cost Ownership施工も含めた総コスト

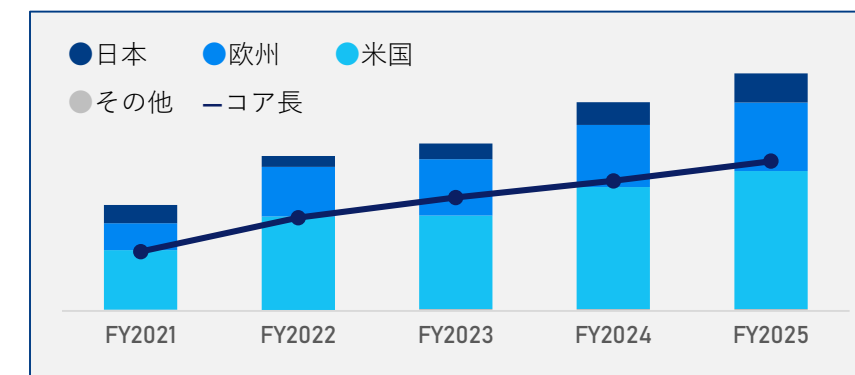


- 世界第3位の市場
- SWR/WTCによるTCO削減
- 欧州独特の要求に合わせた新製品（空気圧送工法、高難燃・低発煙）
→英国でのキャリア、鉄道の実績を大陸に横展開



- 将来の有望市場に向け25中期は仕込みの時期
- SWR/WTCによるTCO削減
- 革新的な製造技術を確立し、コスト競争力強化

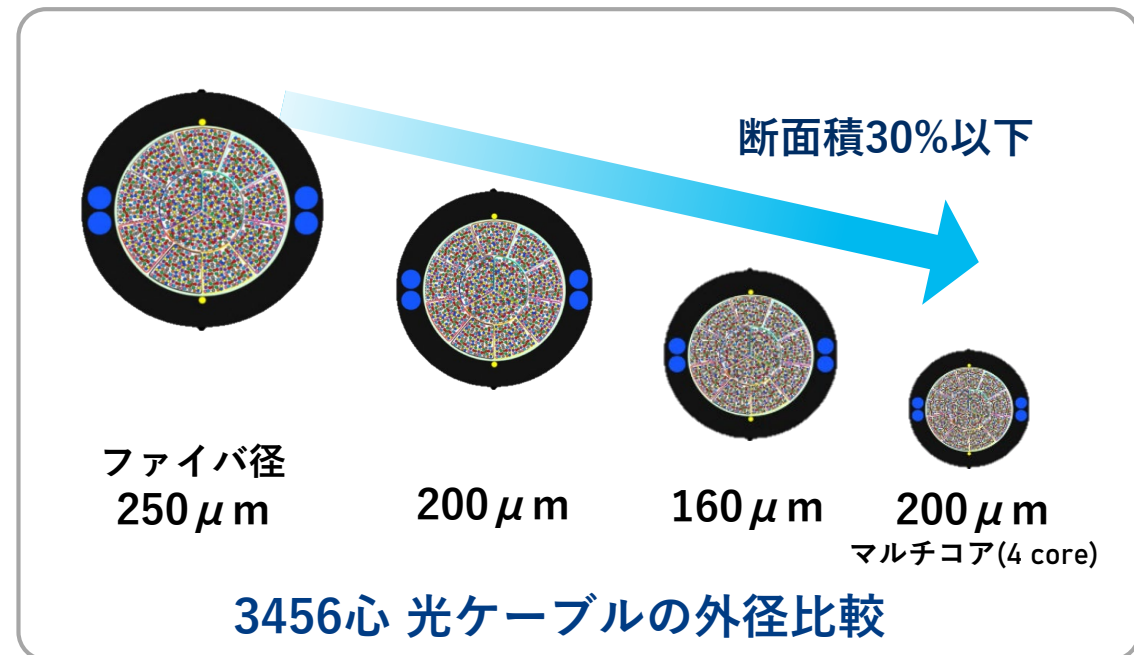
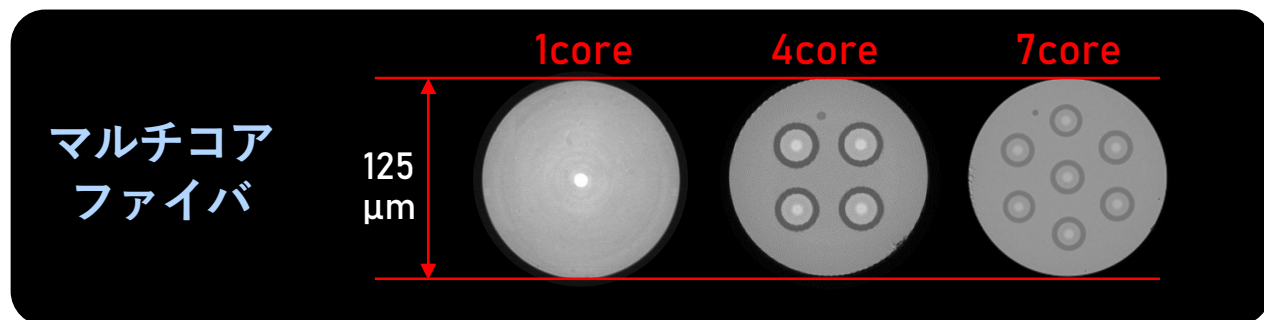
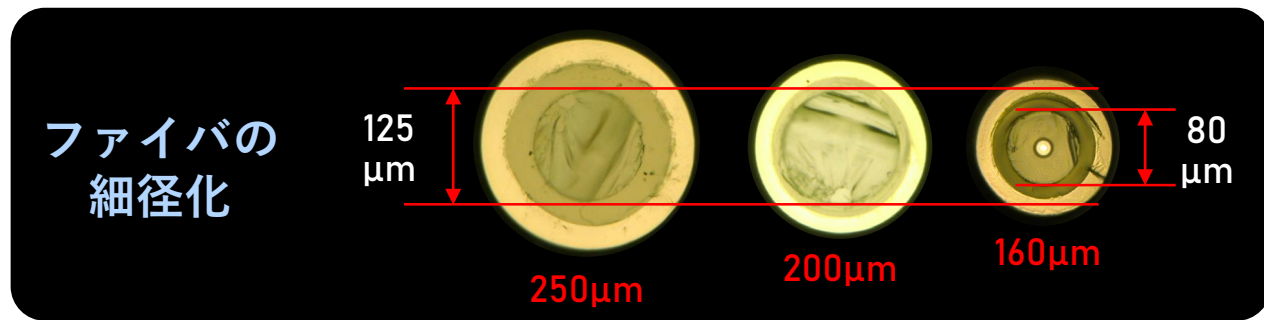
[地域別SWR/WTC売上推移]



ハイパースケールデータセンタ

- グローバル展開+高い成長率（クラウド、メタバース、AI）
- SWR/WTCによるTCO削減（細径、超多心、高密度）
- 新技術にオープンマインド → 新製品・新技術で継続的な差別化

継続的な技術革新により、多心化・細径化・小型化という市場ニーズに応じていく。

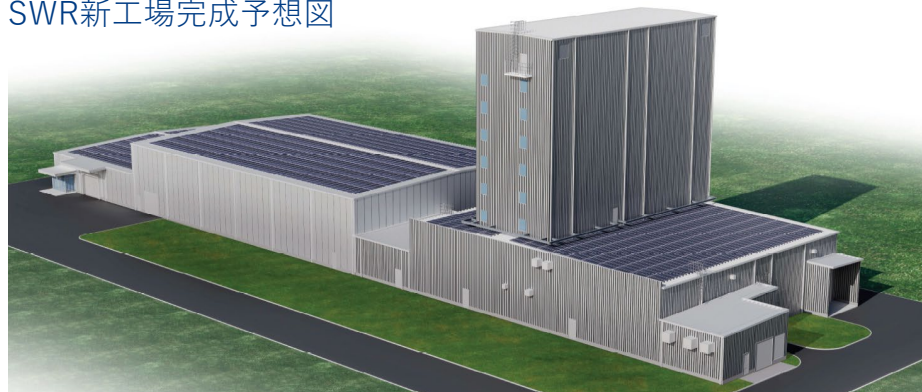


新たなSWR/WTCにマッチしたコンポーネントと融着機の開発 + スキルレスとPlug & Play。



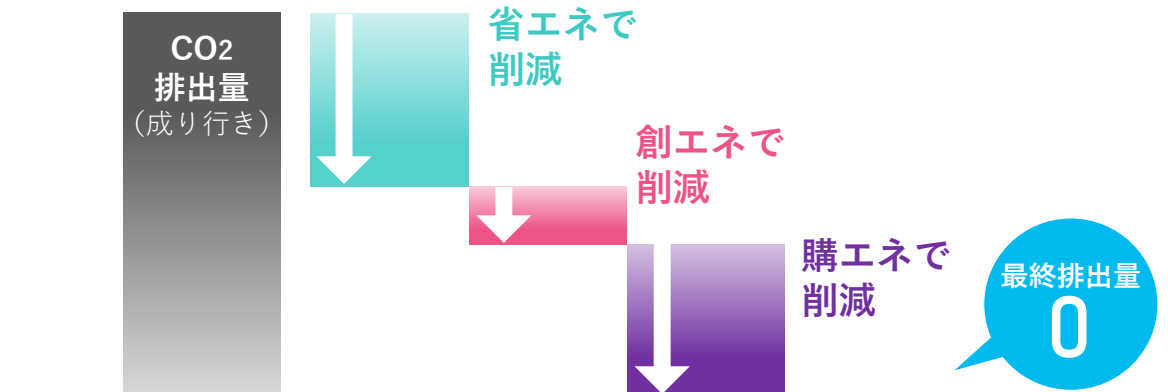
需要増への能力増強と
将来に備えたコスト競争力の強化。

SWR新工場完成予想図



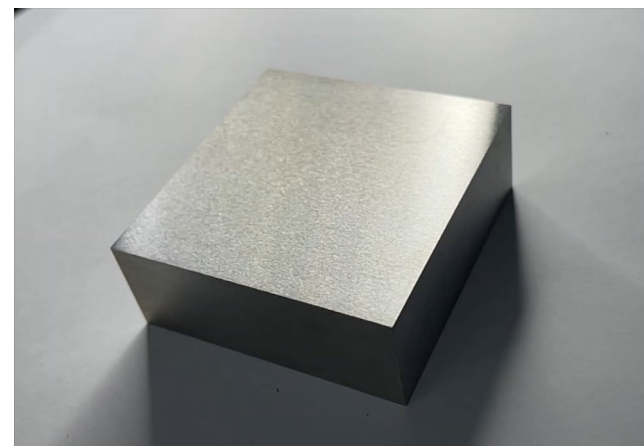
新工場カーボンニュートラル計画

カーボンニュートラルも競争力の源泉とする。



高性能製造装置及び金型

高度な精密加工技術

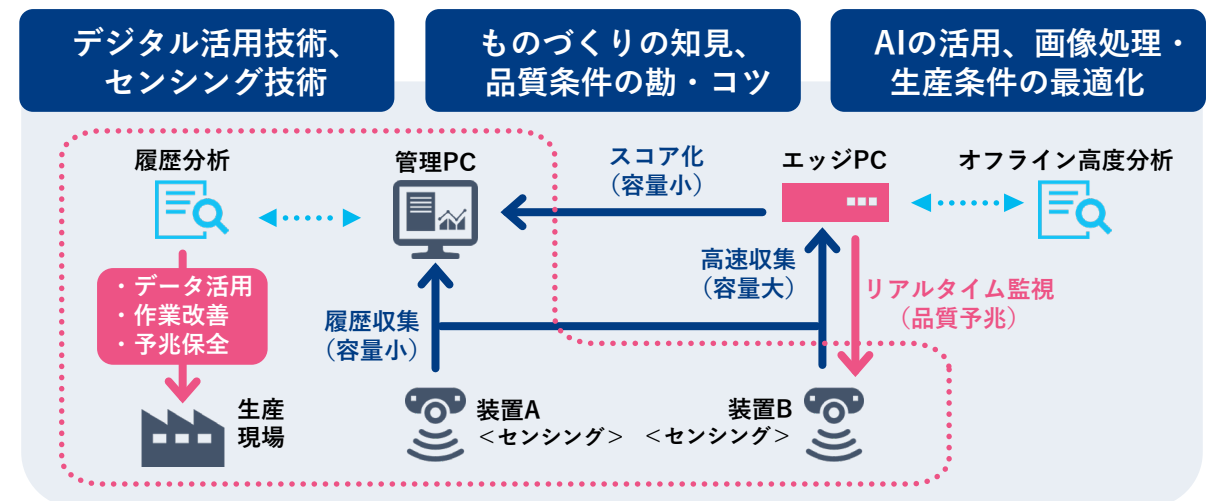


- 1 製造装置の自社開発
 - ・高速製造
 - ・高い歩留り
- 2 高度な精密加工技術を駆使した高性能金型
- 3 新製品と製造技術をセットで開発 >>> 差別化

高い生産性と品質を実現

ものづくりDX

デジタル技術を活用したものづくりの高度化を実現する。



電子部品・コネクタの高密度・高精細・多機能化に高度な製造技術で応える。
 優良な顧客のパートナーとして最先端アプリケーションの創出に貢献し、事業拡大を図る。

速い技術革新にフジクラのユニークな技術で対応

R&Dから移管して
事業拡大

モーターのプレゼンス
をロボットに展開

情報端末

情報ストレージ

医療機器

産業機器



PC タブレット スマホ ウェアラブル AR/VR コネクテッドカー ドローン 監視カメラ



データセンタ



医療機器



産業機器

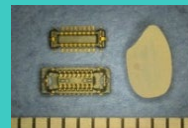
メンブレンスイッチ



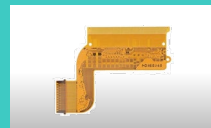
極細同軸Assy



超小型コネクタ



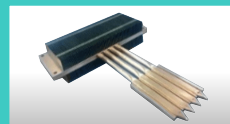
FPC



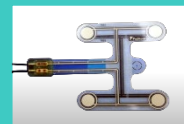
MEMS 半導体センサ



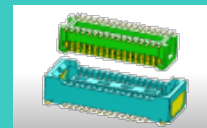
大容量ヒートパイプ



フィルムセンサ



HDDコネクタ



大容量HDD
キャリッジ



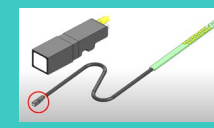
サーバー 冷却用サーマル製品



MEMS
半導体センサ



CMOS内視鏡



酸素センサ



極細同軸Assy



MRIコイル



コネクタ

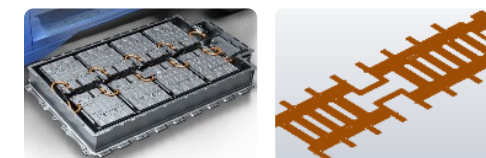




ワイヤハーネス(WH)の収益改善を図るとともに、CASEという100年に一度の変革期を機会と捉え、オールフジクラ技術で新たなビジネスを創出する。

既存WH事業

- 採算重視の受注戦略と事業規模の適正化による収益性の早期改善。
- WH単体販売から周辺部材を含めたソリューション提供へ。
- 次世代高級車重視で、高難度WHを高度な生産技術で対応。



バッテリー監視用FPC

新たなビジネスの探索

- CASEとつなぐテクノロジーとのシナジー。
 - ・ ミリ波モジュール
 - ・ 光ハーネス
 - ・ バッテリー監視用FPC etc...
- 自動車事業の持つアセットを他事業でも活用。
 - ・ 優良な顧客基盤
 - ・ 世界に広がる生産拠点



ミリ波モジュール



光ハーネス



自立自営による意思決定の迅速化と事業の効率化・安定化。

フジクラ・
ダイヤケーブル

(FDC)



産業電線市場において、デジタルものづくりによる収益性向上を通じ、業界での存在感を一層高める。

フジクラ・
プリントサーキット

(FPCL)



FPC市場において、高度な配線技術と進化した生産性により、稼ぐ力の回復を図る。

フジクラエナジー
システムズ

(FES)



特殊電線・送電線市場において、高付加価値品種・高採算品種での競争力を高め、自立した経営を軌道に乗せる。

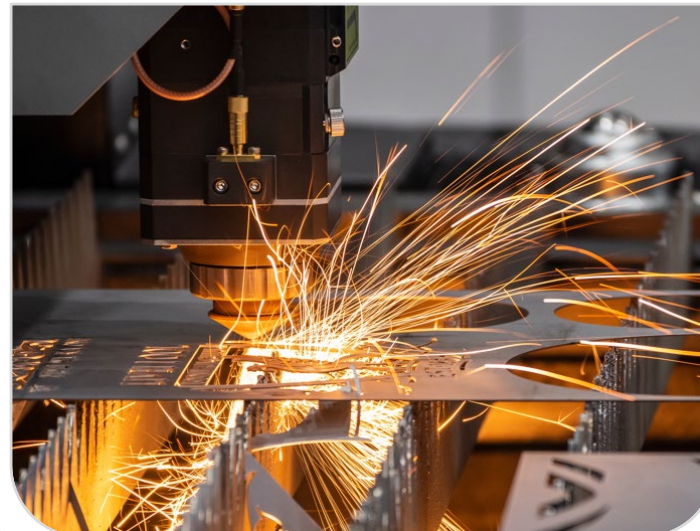
SDGsに向けた取り組みの一つである「カーボンニュートラル」は、
新たなビジネス創出の好機となる。

超電導線材



核融合技術の発展に寄与し、
エネルギー問題の解決に貢献

ファイバレーザ



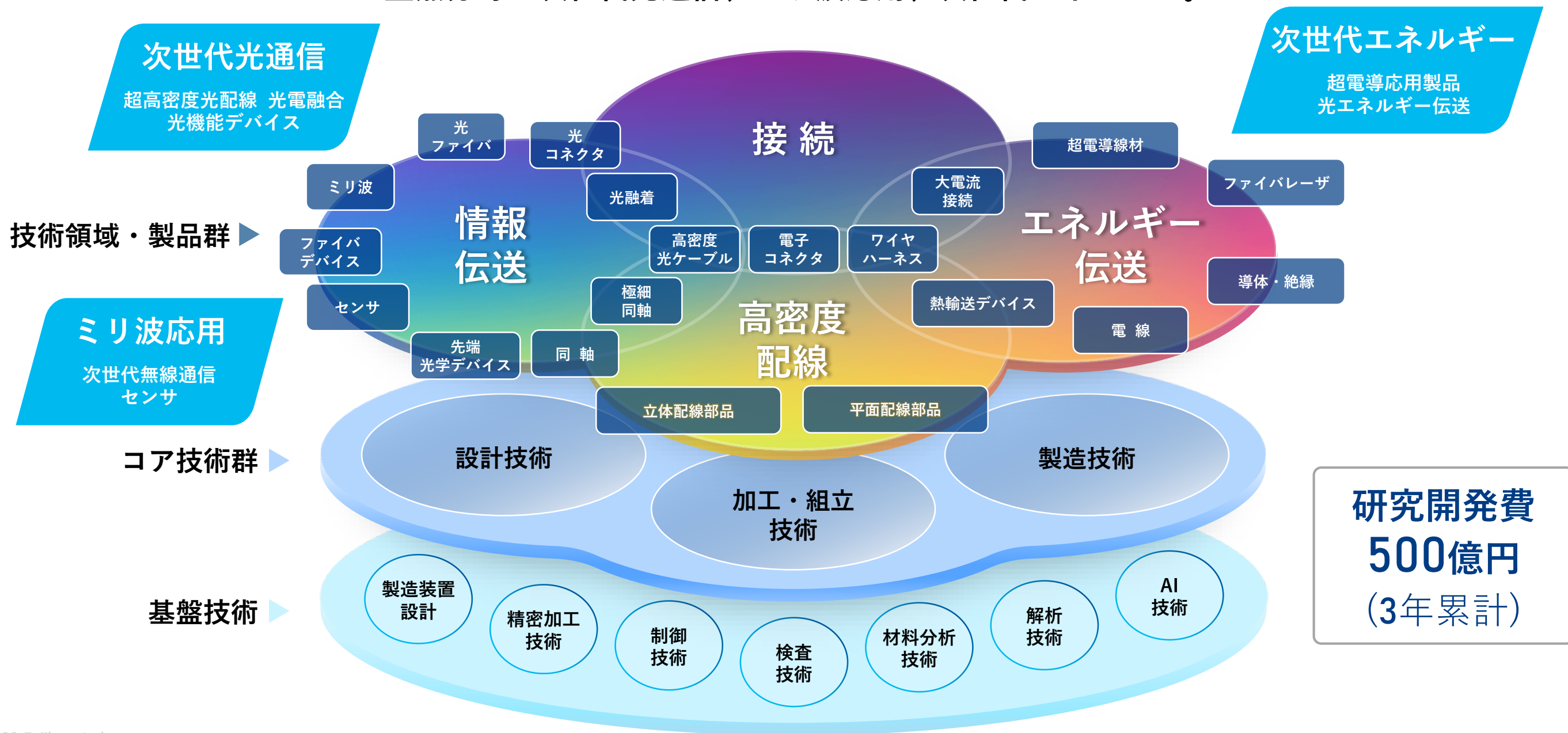
他加工方式よりエネルギー効率が
高く、環境負荷低減に寄与

EV



超高速充電技術で
EVの普及促進に貢献

事業部門開発とR&Dにより、継続的に新製品と新事業を創出。
R&Dの重点分野は次世代光通信、ミリ波応用、次世代エネルギー。





01. 骨太の方針

02. 業績目標

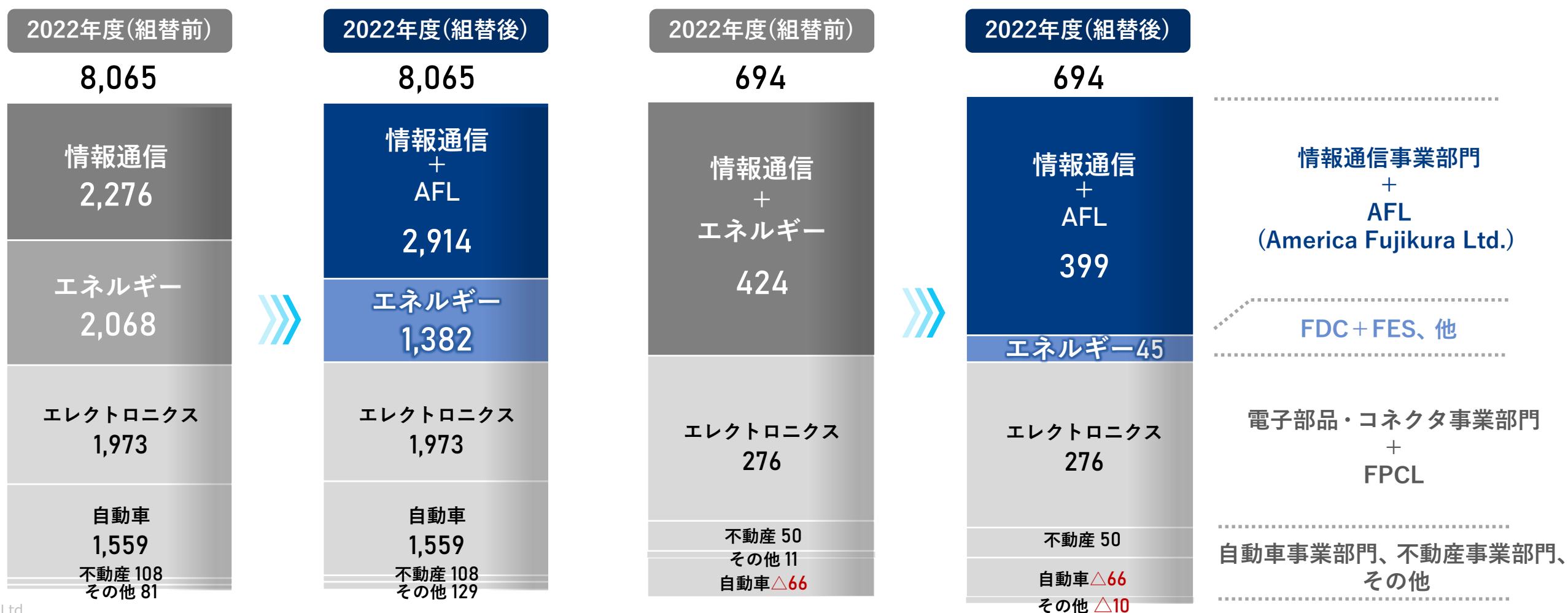
03. 財務計画

04. サステナビリティ

アメリカフジクラ社(AFL)が扱っている送電事業向けの光複合架空地線(OPGW)や、ノンメタリック自己支持型ケーブル(ADSS)等の光ケーブル製品は、最終ユーザが北米電力会社向けであることから従来エネルギー事業部門に含めていたが、情報通信事業部門との連携強化を図るため、2023年度より情報通信セグメントへ変更する。

売上

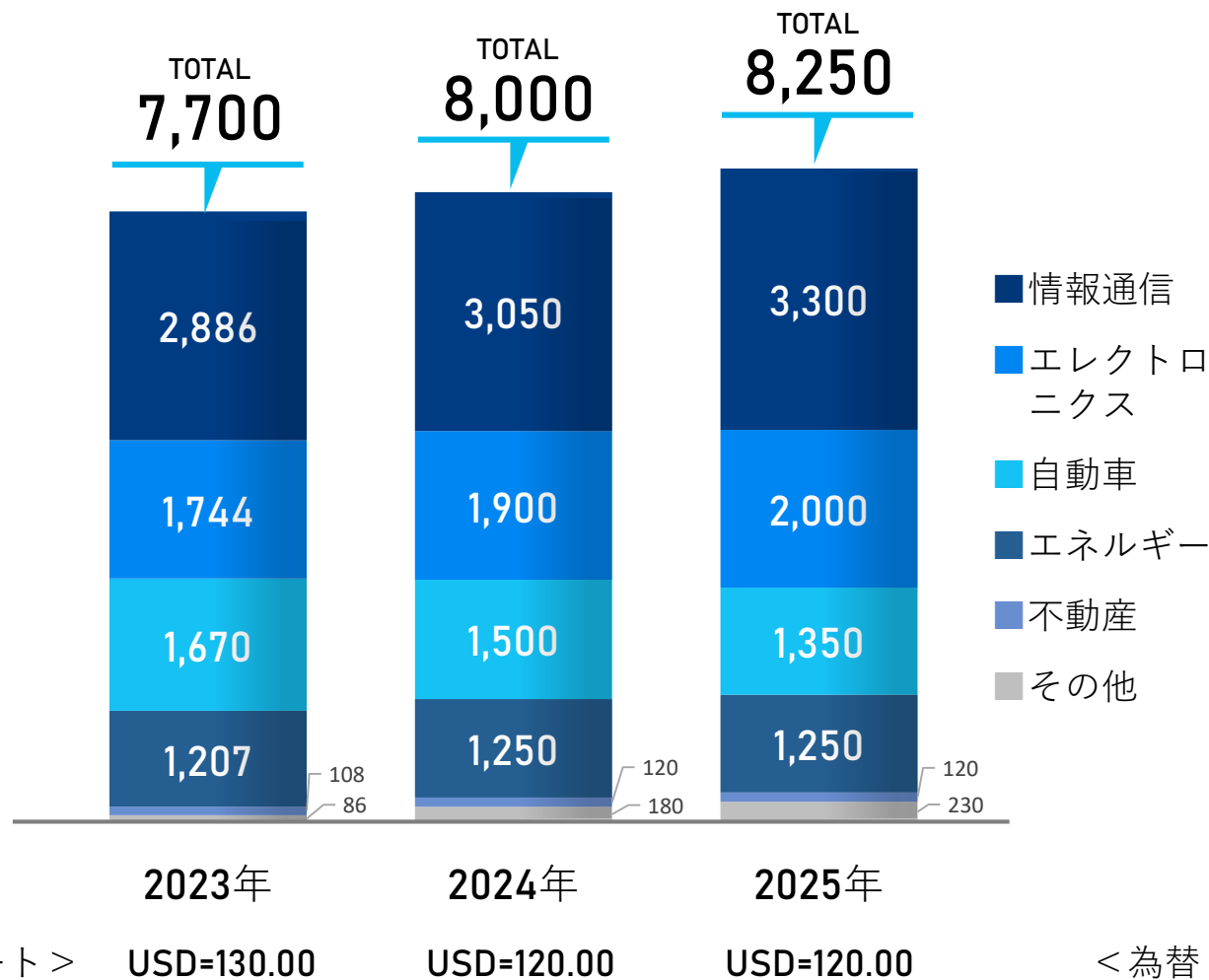
営業利益



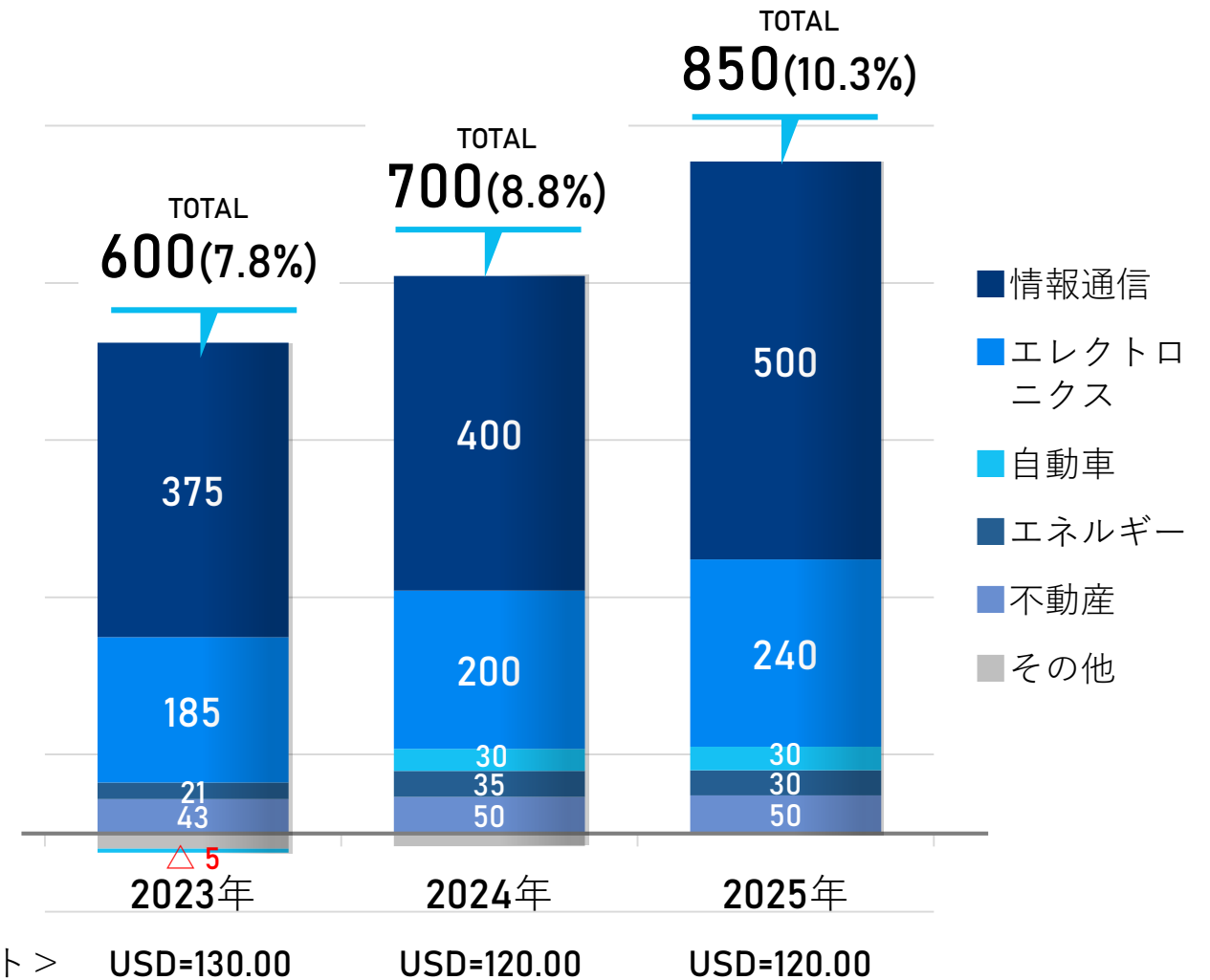
23-25年度 売上高・営業利益推移 (単位：億円/Unit：Hundred Millions JPY)

「自動車WH」は構造改革・選択と集中による規模縮小を図るものの、「情報通信」と「エレクトロニクス」分野の成長により8,250億円規模へ成長。収益性の向上を目指し、営業利益850億円・営業利益率10%超を達成する。

売上推移



営業利益推移



<為替レート> USD=130.00

USD=120.00

USD=120.00

<為替レート> USD=130.00

USD=120.00

USD=120.00



01. 骨太の方針

02. 業績目標

03. 財務計画

04. サステナビリティ

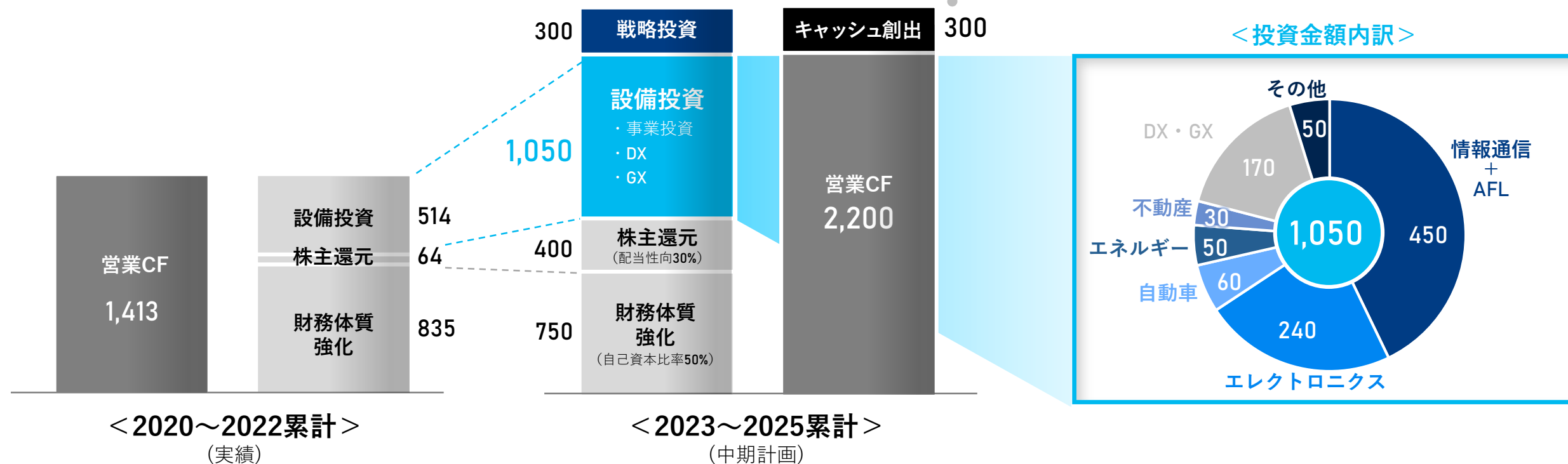
01. 成長投資 / 成長市場である核心的3分野に重点投資

02. 戦略投資 / 新規事業へ機動的に投資

03. 株主還元政策 / 配当性向は30%を担保

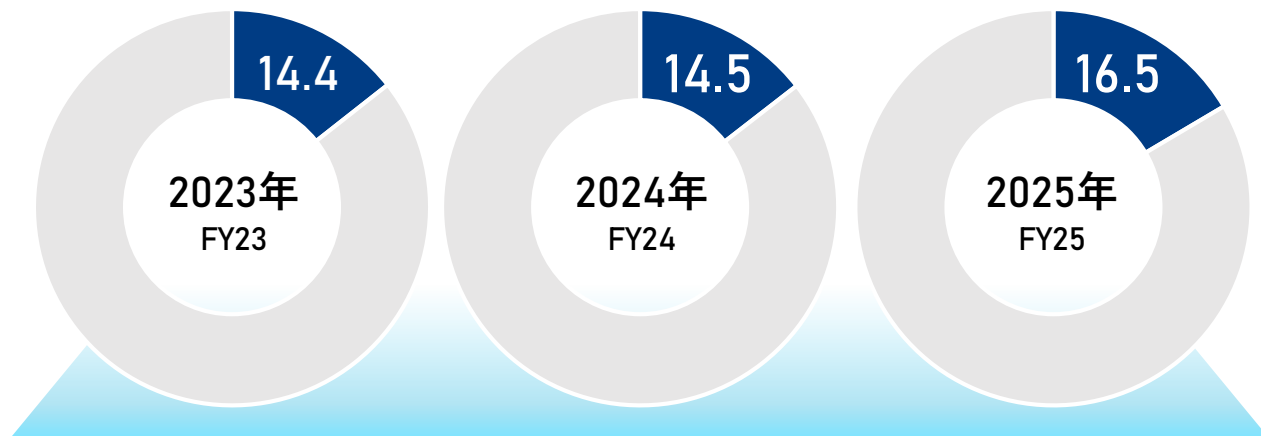
04. 財務の健全性確保 / 自己資本比率は50%を確保

サプライチェーンマネジメントの改善効果によるキャッシュ創出

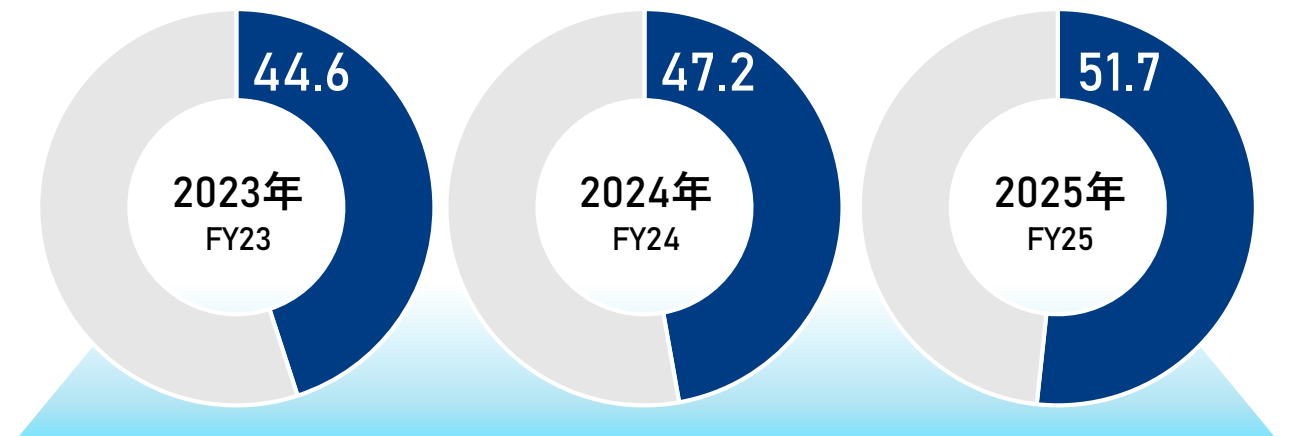


財務健全性の確保と成長投資をバランスし、企業価値向上を図る。

ROE (%)



自己資本比率 (%)



ROIC (%) 税引き後



配当性向30%での 一株当たり配当金 (円)





安定的にPBR1.0倍以上を目指す。



01. 骨太の方針

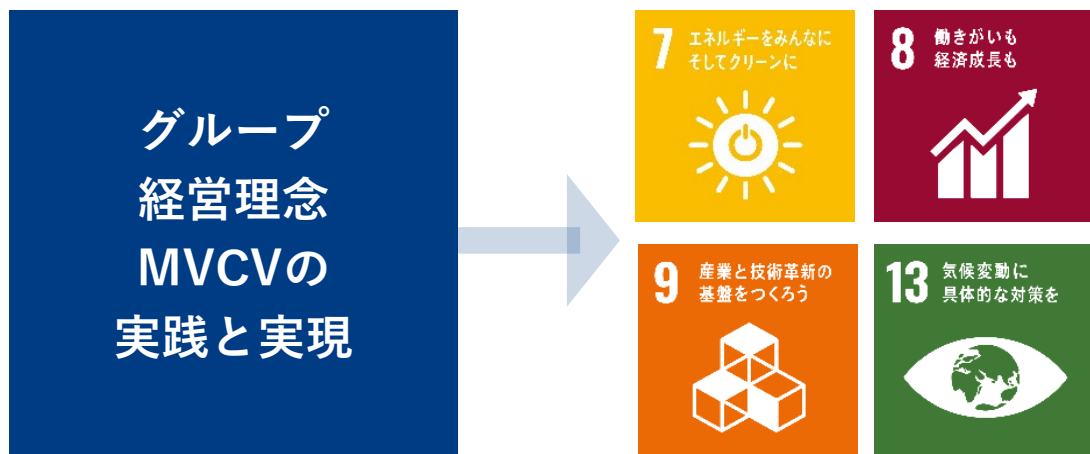
02. 業績目標

03. 財務計画

04. サステナビリティ

フジクラグループは独自の技術を駆使して、グループ経営理念MVCVに掲げている「“つなぐ”テクノロジーを通じ顧客の価値創造と社会に貢献する」ことを目指す。さらに、ESGを経営理念そのものと考え、「サステナビリティ目標2025」を策定し取組みを強化していく。

4つのコア目標



ダブルマテリアリティ視点・
CSR観点だけではなく、
財務的な影響も考慮

4つのサステナビリティテーマと重点方策

サステナビリティテーマ		重点方策
F 財務・将来	2030ビジョン(CSV)の実現と事業機会の最大化	“つなぐ”ソリューションの提供により、快適で持続可能な”みらい”社会の課題を解決し、継続的な企業価値を高める データやデジタル技術を活用した既存事業の効率化と新たなビジネスモデルの創出
E 環境	フジクラグループ環境長期ビジョン2050の達成	チャレンジ1： 工場CO2排出総量「2050年ゼロチャレンジ」
S 社会	世界で通用する有能な人財集団	グローバルに活躍できる人財育成 ダイバーシティ&インクルージョン
G ガバナンス	コーポレート・ガバナンス強化	サプライチェーンマネジメント(責任ある鉱物調達含む)

持続可能な社会への貢献と、企業価値の向上を目指す。

フジクラグループ環境長期ビジョン2050の達成に向けたCO2排出量ゼロ ロードマップ

2030
Scope1,2

- 自社で発生するCO2排出量削減 (2020年度比33%以上削減)

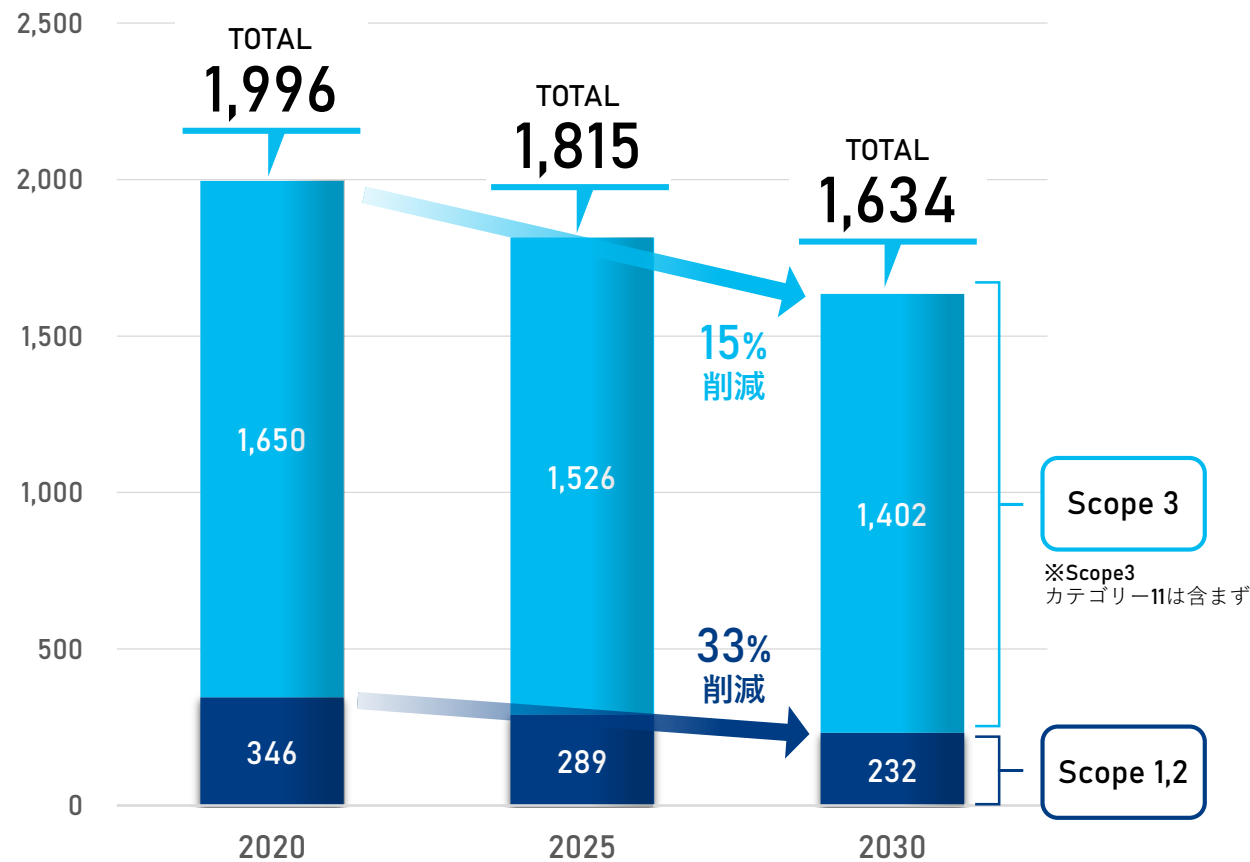
2030
Scope3

- サプライチェーンで発生するCO2排出量削減 (2020年度比15%以上削減)

- 使用電力の45%以上を再生可能エネルギーに切り替える

2050

二酸化炭素排出量 (千トン)



自社の排出するCO2の削減

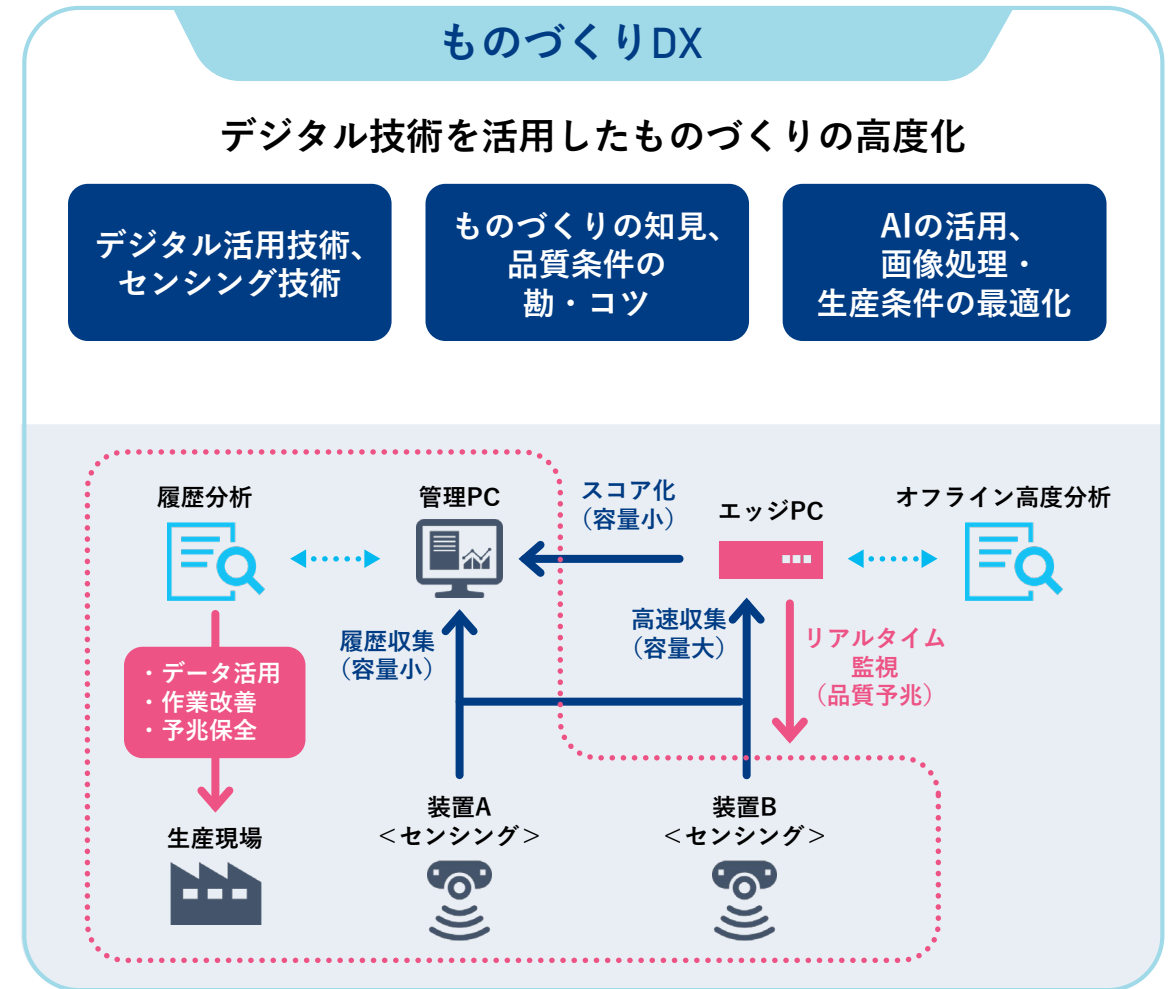
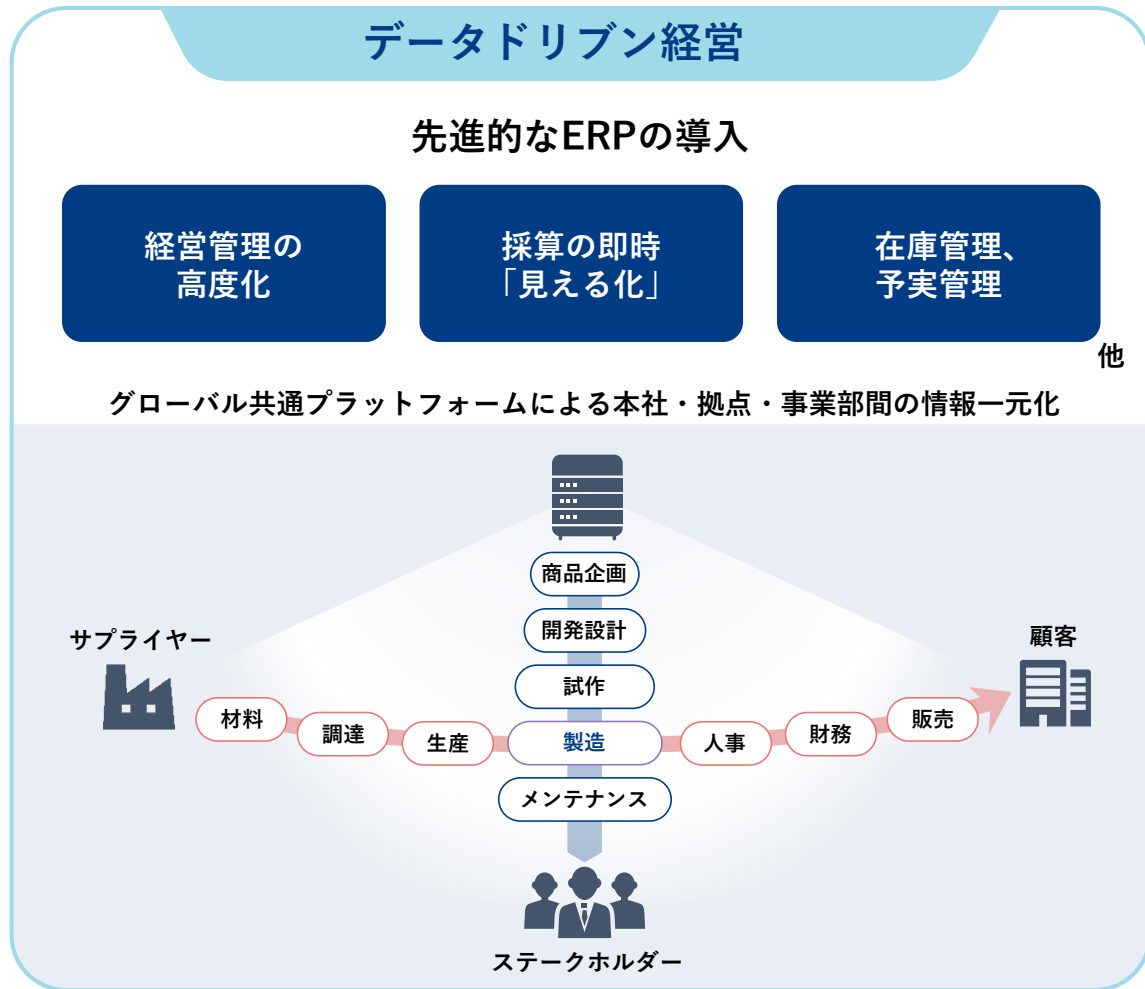
- 省エネ**
 - 生産性向上と事業競争力を高める革新的なものづくりの開発
 - 従来型省エネ活動の積極展開
- 創エネ**
 - PPAによる再生可能エネルギーの導入
- 購エネ**
 - 安価な環境証書と再エネの調達

サプライチェーンで排出するCO2の削減

- 資源の再利用を推進
- サプライチェーンの脱炭素化を推進

製品のカーボンフットプリント削減

- ライフサイクルアセスメントの実施
- DX融合による個別製品排出量算定
- 環境配慮型製品の開発



データを活用した経営・ものづくりで、高収益企業へと進化していく。

社会福祉法人「藤倉学園」



創設
1919年

施設
2か所*

園生
(利用者)
約130名

※伊豆大島・多摩(八王子市)

社会福祉法人「藤倉学園」は、知的障がい者および児童のために創設されました。

現在、伊豆大島と多摩(八王子市)に施設を有しており、約130名の園生に100名程の職員が24時間体制で指導・支援を行っています。藤倉学園への支援を社会貢献活動の原点として、これからも大切に守っていきたいと考えています。



Fujikura CUBE

障がい者雇用の特例子会社(株)フジクラキューブ



構内緑化・環境保全



作業の様子

企業の社会的責任(CSR)活動の一つとして、障がい者雇用の取り組みを進めています。

特例子会社「フジクラキューブ」の今後の活躍は、私たちの重要なCSR活動の一つのみならず、わが国並びに国際社会が当社グループに求めている“ダイバーシティ”への取り組み要請にも応えるものです。

地域コミュニティのシンボルとして、
本社地区、佐倉地区にビオガーデン
「千年の森」を創設。

木場 千年の森



佐倉 千年の森



既存オフィスのバリューアップに加え、新北プラザ棟の建設によって医療を中心とした新しいバリューを提供することで、地域社会に貢献。



新技術を導入し
スマートなビル管理を実現



清掃ロボットによる
施設内の環境維持と
省力化



太陽光発電
導入



ITV画像解析技術による
事故やトラブルの早期発見

